

読書のすゝめ

その9

H 31 4 / 22

新任者紹介⑧

磯田 淳先生（3年6組副担任・国語）
あつし



『99.9%は仮説 思いこみで判断しないための考え方』竹内 薫
平成最後の今月（2019年4月）私にとつて最大のニューズは、ブックホールの存在が映像として確認できた、ということ。世界各地の電波望遠鏡でとらえたデータを2年もの時間をかけて解析した結果が、あのニュースで流れた映像だそうです。しかし、存在自体は、100年も前に 天才科学者アインシュタインによって理論的に証明されていたのですから驚きです。アインシュタインの代名詞・相対性理論をいちばん簡単に平易な？（結構難しかったけど、なんとなく理解できた程度だったと記憶しています）文章で解説してくれていたのがこの本です。世紀の大発見を機に科学の世界に足を踏み入れてみてはいかがでしょうか。頭が柔らかくなり、発想が豊かになること请け合いです。



レンゲ草

宮本 康平先生（2年3組副担任・数学）



『調性で読み解くクラシック』吉松隆（ヤマハミュージックメディア）
日常生活の中で、「今日は調子がいい」とか、「調子に乗ってる」などという言葉をよく使いますね。「調」という感覚自体は、私たちの日常に言葉として染み付いているものです。その「調子」を音楽の言葉で難しく言うと、ハ長調、ヘ長調とかいう「ハーモニー」のシステムにあたります。おもしろいのは、この「調子」の善し悪しは単なる「感じ」だけでなく、科学的な裏付けもあるということです。しかも東洋と西洋、キリスト教と仏教など、民族や文化的背景によって「調子が良い」の定義は変わります。そういったことを、いろんな視点から解説したのがこの本です。いつも聞いている音楽の雰囲気と調性の関係を知らると、音楽をまた違った視点から見ることができます。長調は「楽しい」、短調は「悲しい」？作曲家はどうやって調性を選ぶの？など、調についての不思議を知りたい人はぜひチェックしてください！

今週末から大型連休（10連休）

そうだ！本を読もう！

『学校に行きたくない君へ』全国不登校新聞社編



「2019若い人に贈る読書のすすめ」で推薦されている本です。辻村深月・樹木希林・宮本亜門・茂木健一郎・内田樹・高山みなみ・羽生善治など20名に、不登校の若者たちが体当たりで取材したものです。

ー あきらめると言うと、ネガティブに聞こえますが、肯定することと同じ勇気だと思えます。僕は自虐的な人間だから、「自分を肯定する」という言い方より「ダメなんだから仕方ない」という言い方のほうが安心するんで（笑）。（略）本当はみんな不安なんだから話し合ったほうがいいですよ。それは最終的には仲間をつくることだし、好きな人と出会うことだと思う。（略）幸せになりたいというのも、他人と比較するから不幸や幸福を感じるものだと思います。【田口トモロヲ】

※図書委員会開催します！

28日（木）15時20分から【於：図書館】

内容は

- ① 役員選出
- ② 図書委員の仕事についての説明
- ③ 役割分担（当番）